



A団地 門から続くアプローチの塀は、アールの曲線がやさしく人を導き入れてくれる。



門塀はジョリパッドを使い柵引仕上げで暖かい雰囲気。



門やアプローチ塀の要所には御影石をあしらひ、重厚なアクセントをつくっている。御影石は適度な間隔をもたせて並べ、圧迫感もなく、建物と駐車場とのつながり感をもたせている。



アプローチ塀にはところどころにフットライトが設けられ、おしゃれな雰囲気を醸し出すとともに、夜の足元を照らす。



販促活動はHP程度なのに個人のお客様も増加 石や樹木など素材にこだわり、和の雰囲気をもった独自のエクステリアを演出



代表取締役社長
近藤利則様



設計
水口勇登様

もともと父が(株)寝屋川植物園という外構の会社をやっている、平成元年にそこから独立する形で創立した会社です。父の方は公共事業が主体ですが、当社は戸建ての住宅がほとんどです。取引先は大手ハウスメーカーが多く、ニュータウンを数十棟まとめて受注することもあります。最近では個人の施主様も増えています。これはお施主様からの紹介や口コミもありますが、販促用につくったHPの効果が大きいようです。ここ1~2年、「HPを見て来ました」というお客様が目立って増えてきました。

現在、社員は私と設計担当者2名のみ。これといった営業活動をしていない当社の自慢は、なによりも設計力です。設計担当者は非常に勉強熱心な上に、創業当初からCADで図面を描いてきたので、早い段階から完成度の高いプランが提案でき、パースを一見して商談成立といったケースもあります。活動エリアは交野市内~奈良北部、京都南部が中心ですが、神戸や和歌山まで足を伸ばす場合もあります。

プランニング上で心がけているのは、「どこかに「日本」を意識していきたい」ということ...新しい和の雰囲気をエクステリアにうまく採り入れていけたらと思います。素材にもこだわっていて、とくに石材は独自に輸入するなど豊富に使っています。地域の木や植物も大事にしたいですね。日本の風土に合い、歴史を育んできた木が、その地域の街並みには一番似合うと思います。また、環境に配慮し、モラルの高い仕事を続けるために、ISO14001(環境マネジメントシステム規格)の認証も取得しました。そのことで大手ハウスメーカーからの信用度も増したように思います。

今後は、オリジナリティの高いプランで「あれはグリーン京阪の庭だ」と認めてもらえる仕事をしたいですね。突飛で目立つということではなく、日本の街に自然に溶け込みながらも主張する.....そんなセンスの良いエクステリアをつくってきたいですね。

A団地 設計のポイント

団地のプラン例です。建物の配置と駐車台数が決まっていたぐらいで、あとは自由にレイアウトさせていただきましたが、初回の提出プランでほぼOKになりました。駐車場と住まい部分の境に低い塀を設け、駐車場を視覚的に遮りながら各住戸に出入りできるようなアプローチをつくりました。楽しく遊び心のあるアプローチにしたかったので、塀は曲線を多用してやさしい雰囲気としています。道幅が狭いので圧迫感が出ないようにスリットを入れ、駐車場との空間的なつながりも意識しました。門や塀には御影石、床にはコロ石など、天然石を要所要所に用いて高級感を演出しています。駐車場の床には、細かい天然石を樹脂で固めた透水性のある素材(天然石透水樹脂舗装材)を使用しました。奥のフェンスや駐輪場の屋根などはアルミ製品を使用しています。

